

飯塚市立小中一貫校潁田校 令和2年度 研究主題

地域連携学習研究主題について

1. 飯塚市立小中一貫校潁田校 研究テーマ

『地域とともに「ふるさと」の未来を創り出す子どもの育成』
～地域を知る、地域とつながる、地域に発信する活動を通して～

2. 研究テーマ設定理由

平成27年「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方について（答申）」（中央教育審議会）には、「未来を創り出す子供たちの成長のために、学校のみならず、地域住民や保護者等も含め、国民一人一人が教育の当事者となり、社会総掛かりでの教育の実現を図る」『子供の成長を軸として、地域と学校がパートナーとして連携・協働し、意見を出し合い学び合う中で、地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「学校を核とした地域づくり」を推進し、地域の創生につながっていくことが期待される（図1）』とされている。学校が家庭・地域と密に関わり連携していくことで、地域の教育力が高まり、共に子ども達の成長を支えることができる考える。

潁田校では、学校経営構想の中に、9年間を通して目指す児童生徒像に「ふるさとを愛し、将来への夢や希望もてる児童生徒」を挙げている。これまで、地域の方々と出会う機会をもつために地域の人材を積極的に活用した「子育て講座」等の学習や、地域の様子を調べたりする「まちたんけん」等の学習を段階的に進めてきた。また、「潁田まちづくりフェスタ」や「地域もりあげ隊」等の学校から地域に出て、地域の方と協働で1つのことを創り上げる活動を行ってきた。しかし、9年間を見通した地域連携学習の系統性を構築することはできていなかった。

子どもの実態として、地域の行事等に参加している子どもは多いが、実際に大人になって、この町を出たいと考える数が多く、地域に対しての愛着も少なく、地域の魅力を実感することができていない。そこで、本年度の研究テーマとして、『地域とともに「ふるさと」の未来を創り出す子どもの育成』を設定し、地域について知り、地域とつながり、地域に発信する活動を通して、「ふるさと」に愛着をもち、魅力を知り、地域の未来を担う人材を育成することを目指した。

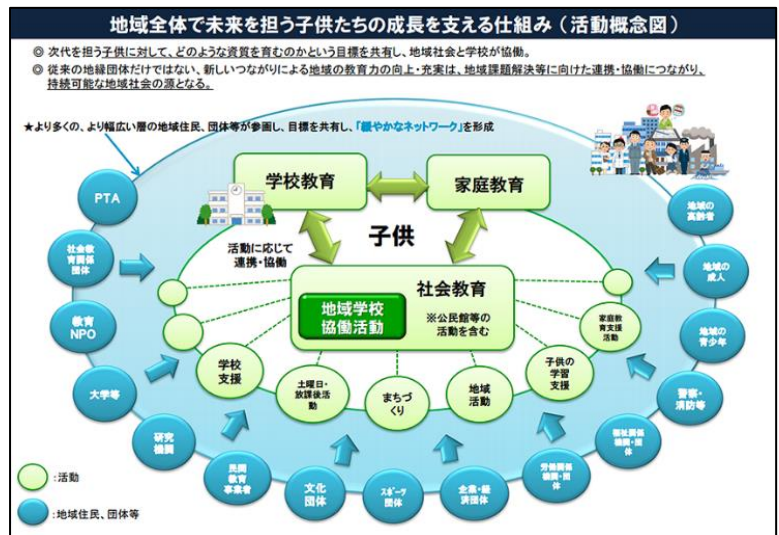


図1 地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み図



9年生子育て講座

【めざす子どもの姿】

	目指す子ども像
前期 1～4年 「知る」	・学校や地域のことを進んで知ろうとする子。 ・友達と協力し、楽しみながら活動する子。 ・将来の夢や希望をもつことができる子。
中期 5～7年 「つながる」	・地域の探索や地域の人への思いにふれ、地域について考える子。 ・課題を見つけ、他者と協働しながら探究できる子。 ・将来の夢や目標を考え、自分の長所を伸ばすことができる子
後期 8・9年 「発信する」	・地域をよりよくするために考えを発信する子 ・お互いの考えを尊重し合い、主体的に協働する子。 ・自己を知り、自己の生き方を考え、進路を選択することができる子

3. 各学年における地域連携学習

これまで本校では、それぞれの学年において地域についての学習を行ってきたが、取組を見直し、9年間を見通した系統性のある地域連携学習を構築し、学習内容と系統表を作成した。そこで、前期（1～4年生）においては、「地域を知る」活動、中期（5～7年生）においては、「地域にふれる」活動、後期（8～9年生）においては「地域に発信する」活動を設定した。

【小中一貫校 頤田校における9年間を見通した地域連携学習 系統図】

